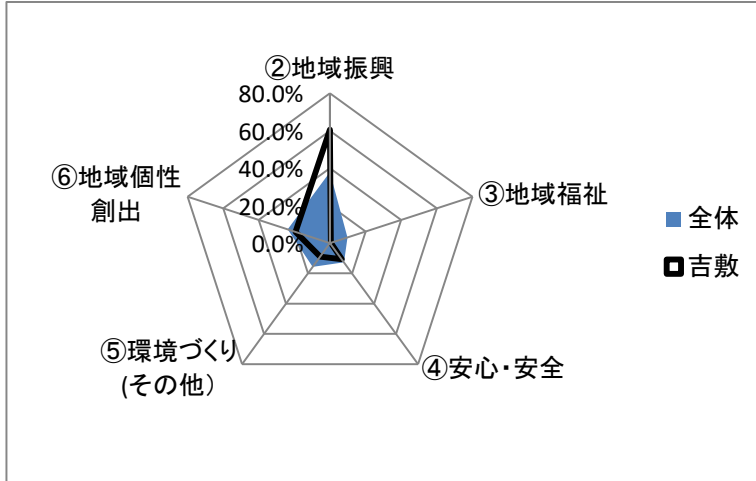


## 吉敷地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和3年度)

### ■ 地域の情報

地域人口	14,631人	自治会数	16
世帯数	6,300世帯	自治会加入率	78.5%

※数値は、令和4年4月1日のもの



### ■ 決算状況

交付金配分枠	9,892,000 円
交付金決算額	9,870,617 円
その他収入	3,259,448 円
交付金決算額／配分額	99.8%

### 各分野の決算

①協議会運営	7,774,259 円
②地域振興	3,244,012 円
③地域福祉	22,045 円
④安心・安全	572,619 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	478,954 円
⑥地域個性創出	1,038,176 円
決算総額	13,130,065 円

### ■ 地域づくりの活動方針(テーマ)

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり「みんなで支え合う 笑顔あふれるぐれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

- 活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち
- 活動目標2「地域福祉」ともに支え合い心豊かに暮らせるまち
- 活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安心で安全なまち
- 活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち
- 活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

### ■ 総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。しかし、今年度も、コロナ禍の影響を受け、中止を余儀なくされたものが多く、大変残念な年でした。

その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、イベントが少なくなったにもかかわらず応募作品の増加が見られました。また、地域ぐるみによる見守り活動の仕組みづくりにも取り組む「ふれあいネットワーク協議会」により、デザインを更新した一体的な見守りのためのグッズを活用した地域全体での見守りができました。昨年から引き続きコロナ禍の影響を受けましたが、徐々にコロナ感染拡大防止に努めながらの生活に慣れるにつれ「コロナ禍であるからこそできることは何か」を考える機会が多くなりました。そのような中、様々な交流会をはじめスポーツ事業や秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、交流センター内で感染拡大を防止しながらでもできることを探すことができました。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての地域住民の話し合いの場となってきています。同様に、様々なスポーツ交流大会や、講演会などもコロナ禍の中で開催することができました。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっています。そのため、地域住民の意見を把握するために行われたアンケート調査結果を基にコミュニティタクシー運行を検討する「吉敷地域コミュニティタクシー実証運行協議会」を設置し、今年度実証運行を開始しました。しかし、コロナ禍を受けての運行となり、市との協議により、実証運行期間が延長されることが決定しました。

地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら6年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手にとっていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては2度目の優秀賞である「会長賞」を受賞することができ、毎年賞をいただいています。

更に今年度は、地域交流センターにおいて、地域づくり協議会を中心に会員である地域住民が主体的に社会教育を始めとする地域活動に関わっていることが評価され、文部科学大臣の優良公民館表彰も受賞することができました。

地域の史跡等の案内板設置への取り組みについては、今年度は大内氏にゆかりのある凌雲寺跡の駐車場に大看板を設置するとともに大内氏の歴史講演会を開催し、地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

## ■分野別事業名

①	協議会運営	協議会運営
②	地域振興	ふれあいネットワーク、コミュニティタクシー導入事業、夏まつり・ふるさとまつり、よききフォトコンテスト、人材発掘に向けた交流事業、広報活動、人権学習の推進、こどもドリムプロジェクト、ホテル観賞のタベ、動画による活動団体の紹介、レノファ山口が繋ぐ地域と企業の新たなまちづくり、吉敷まちづくり計画の策定
③	地域福祉	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ、えがお食堂よきき
④	安心・安全	地域防災体制の充実、交通安全・防犯対策、反射鏡の充実、青少年の健全育成
⑤	環境づくり	環境づくり、ホテル増殖・放流事業
⑥	地域個性創出	文化振興

## ■重点的に取り組んだ事業

事業名	コミュニティタクシー導入事業	決算額	425,847円
①	目的	旧出張所・公民館跡地を積極的に活用するために、跡地を拠点としたコミュニティタクシーの運行を検討するとともに、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。	
	実施内容	高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のための素地として、吉敷地域の実情に見合ったコミュニティタクシー実証運行協議会を立ち上げ、実証運行に取り組みました。	
	実施時期	通年	
	参加人数	地域住民	
	成果	乗車される方々の意見を集約したり、運行ルートの変更を実施したりしながら、乗車率アップに取り組みました。	
	評価	跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携を取りながら、実証運行に取り組みました。コロナ禍を受け、乗車率が思わしくなく、10月には運行ルートの変更をするなど、乗車率のアップに取り組みましたが、度重なるコロナ禍の影響から、本格運行に向けて不安の残るものとなりました。市から実証運行期間の延長に対し、了承を得たことから、令和4年9月まで猶予ができたため、本格運行に向け運行経費の抑制を検討し、運行日や便数の見直しを図りました。しかし、市に提出する申請書等の手続きなど事務処理の進め方や交流センターとの連携については課題が残りました。	
	今後に向けて	延長された実証運行期間の中で、運行経費抑制に係る運行日や運行便数の削減に対する効果や課題を検討し、本格運行の実現に向けて取り組みます。	

②	事業名	吉敷まちづくり計画の策定	決算額	446,970円
	目的	安心で安全な住みよいまちづくりを目指し、個性豊かで活力のある自立した地域社会の実現のために地域住民により5ヶ年計画を策定に取り組みました。		
	実施内容	安心で安全な住みよいまちづくりを目指し、個性豊かで活力のある自立した地域社会の実現のために地域住民により5ヶ年計画を策定しており、その計画期間の4年目にあたるため、総務・企画委員会を中心に策定の手順等について検討しました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	30人		
	成果	計画期間の4年目にあたるため、吉敷まちづくり計画策定委員会を設置し、現行計画に対する地域住民の認知度や、地域課題の掘り起こしのために、アンケート調査を実施しました。		
	評価	当地域の計画は地域づくり協議会、自治会、地区社協が一体となって取り組む計画となっており、今回の見直しについても、当地域の特徴である地域一丸となり取り組むことができました。		
今後に向けて	アンケート集計を基に、地域活動団体や地域住民との座談会等を開催するなど、課題の集約に対し、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という精神で、解決するための手段を見つけることで見直した計画の策定に努めます。			
③	事業名	レノファ山口が繋ぐ地域と企業の新たなまちづくり	決算額	0円
	目的	交流と想像のまちづくりを進める市スマートシティ推進室のひとつの事業である「レノファ山口が繋ぐ地域と企業の新たなまちづくり」に、レノファ山口のホームグラウンドのある当地域とパートナー企業のひとつ「秋川牧園さん」とで取り組みました。		
	実施内容	交流と想像のまちづくりを進める市スマートシティ推進室のひとつの事業である「レノファ山口が繋ぐ地域と企業の新たなまちづくり」に、レノファ山口のホームグラウンドのある当地域とパートナー企業のひとつ「秋川牧園さん」とで取り組みました。YouTube配信により吉敷地域は地域住民に地域の素晴らしさを広く伝えるとともに、秋川牧園さんは、レノファ山口の選手とともに健康づくりの拡充に努めました。		
	実施時期	秋川牧園さんは、レノファ山口の選手とともに健康づくりの拡充に努めました。		
	参加人数	地域住民		
	成果	地域課題の解決を地域内の限られた団体や地域住民でのみ取り組んでいましたが、地域を超えた企業や地域外の方々とも取り組むことができ、またその交流もできました。		
	評価	年度内での事業成果が必要であったため、当初検討した取り組みが難しくなり、急遽、YouTube配信で各々の強みを発信することになりました。限られた時間での取り組みに、参加する関係者が意見や知恵を出し合い、同じ方向に向かうことで、地域の団結した力を確認することができました。		
今後に向けて	引き続き、レノファ山口がパートナー企業と地域を繋ぎ、一つの目標に向かい、連携を取りながらそれぞれの力を発信できる機会は、地域を超えた、また、企業側も地域貢献という目標から、新しい試みが体験できるいい機会だと思われます。現在、計画策定を行っている時期にあたり、限られた地域内での取り組みから、レノファ山口が繋ぐ企業との取り組みも視野に入れた計画になれば、その相乗効果も素晴らしいものになるとと思われます。今後も、この取り組みを広く地域住民に紹介しながら、団体活動の拡充や地域活動の新たな挑戦に努めます。			